

果樹情報 第10号 (R7.8.6~R7.9.9)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況(令和7年8月1日時点)

なし「幸水」の果実肥大は、暦日対比・満開後日数対比共に平年より小さい状況、「豊水」は暦日対比・満開後日数対比共に平年並、りんご「ふじ」は須賀川・石川において暦日対比・満開後日数対比共に平年並、鏡石では暦日対比・満開後日数対比共に平年より小さい状況で推移しています(表1)。

また、もも「あかつき」の収穫果は、果実肥大は暦日対比・満開後日数対比共に平年より小さく、糖度は平年より高い数値となりました(表2)。

表1 管内の各樹種における果実肥大状況 (令和7年8月1日現在)

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	61.1	69.7	60.6	68.3	101%	102%
	ふじ(鏡石町高久田)	53.0	57.1	60.0	66.7	88%	86%
	ふじ(石川町沢井)	56.9	65.1	57.9	64.5	98%	101%
	つがる(石川町沢井)	65.3	76.6	66.9	76.5	98%	100%
	ジョナゴールド(石川町沢井)	58.3	68.3	62.0	71.3	94%	96%
	シナノスイート(石川町沢井)	59.4	66.5	60.5	68.5	98%	97%
なし	幸水(須賀川市越久)	49.7	63.7	53.5	65.2	93%	98%
	豊水(須賀川市越久)	52.5	61.0	53.8	61.2	98%	100%

表2 管内のもも「あかつき」における収穫果実調査結果 (令和7年7月29日調査)

	果重 g	縦径 mm	側径 mm	硬度 kg	糖度 Brix
今年度	265.6	70.6	82.5	2.07	13.6
平年	302.2	75.2	87.5	1.9	12.4
平年比(%)	88%	94%	94%	107%	110%

(1) 果実の成熟状況(農業総合センター果樹研究所:福島市飯坂町)**ア りんご「つがる」の成熟状況**

満開後89日(7月23日)における果実品質は、果実硬度が17.8ポンド、デンプン指数は1.0、糖度は10.4、リンゴ酸は0.35g/100mlです。満開後日数での比較では、アントシアニン含量が平年より低く、クロロフィル含量は平年より高く推移しているため、平年の着色推移と比べ、着色がやや遅れています。

イ なし「幸水」の成熟状況

満開後100日頃における成熟調査の結果は、果実硬度が14.3ポンドと平年より高く、糖度が11.5と平年より高いです。また、果皮中クロロフィル含量は166 μ g/cm²と平年より高い状況です。また、果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度については、平年値をやや上回っており、現時点では果肉先熟の状況ではありません。

2 栽培上の留意点**(1) 土壌の水管理****ア かん水**

夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6~7mm、曇天日で2~3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25~30mm程度(10a当たり25~30t)を目安とし、5~7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしてください。

ただし、ももでの収穫5~7日前以降のかん水は、糖度低下など品質へ影響を及ぼす場合があるので、状況に応じてかん水の必要性やかん水量を判断してください。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行きましょう(地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めてください。

(2)も も

今後、「川中島白桃」、「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。また、有袋栽培では適期に除袋するとともに、着色管理作業を計画的に行いましょう。

(3)な し

ア 収穫予測

果樹研究所における「幸水」の収穫盛期の予測は収穫盛期が8月22日と推測され、平年より7日早い見込みです(果樹研D VRモデルより)。今後の気象経過等によっては収穫が早まる可能性もあるため、果実の成熟状況を良く確認して収穫適期の把握に努めましょう(須賀川地域における収穫盛期は8月24日頃と予想されます)。

「幸水」の品種特性として、収穫盛期の降雨などにより急激に土壌水分が増加した後は果皮クロロフィルや果実硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意しましょう。収穫基準は、全農作成「幸水」用カラーチャートの1.5を目安にし、適期収穫に努めましょう。なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管しましょう。

イ 修正摘果

修正摘果は、満開後120日頃を目安に実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長するため、10aあたり10,000果を目安に適正着果に努めましょう。摘果対象は、裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が白い果実(肥大が停滞しやすい)及び小玉果を整理しましょう。ただし、過度の摘果は収量に影響するので控えてください。

○修正摘果の目安

満開後110日(8月10日)時点で下記が大きさが目安となります。

2L(32玉):果実横径 80mm M(40玉):果実横径 70mm

(4)りんご

ア 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤として「ストップ液剤」を用いる場合は、収穫開始予定日25日～7日前に散布しましょう。

【参考】石川町沢田地区における普通つがるの収穫始は平年で8月26日です。

イ 早生種の収穫前管理

本年は、気温の高い日が続き、日焼け果の発生が確認されています。「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施してください。日焼け果の多発が懸念されますので、直射日光の当たりにくい部位から行き、果実を確認しながら徐々に実施しましょう。また、地色の緑色が強い時期に早めに葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意してください。

ウ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行ってください。

3 病害虫防除

(1)病害

ア リンゴ褐斑病、炭疽病

褐斑病の発生ほ場割合は中通りで平年よりやや高い状況にあります(令和7年7月30日付け病害虫発生予察情報発生予報第6号)。本病は梅雨期以降も二次感染を繰り返す被害が拡大するため、本病の発生が多い場合は8月以降も10日間隔で防除を実施し、感染拡大を防止しましょう。

炭疽病は、発病が増加する時期であるため注意が必要です。本病が発生しやすい黄色系品種や紅玉などでは、薬剤防除のみでは防除効果が不十分であるため、伝染源となる罹病果実の除去を徹底しましょう。薬剤防除は、防除暦に従って適切に行ってください。

イ モモ灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで本病の防除を徹底しましょう。薬剤防除は、防除暦に従って適切に行ってください。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が2℃高く推移した場合、モモハモグリガの第4世代成虫の誘殺盛期は、8月2半旬頃と予測され、第5世代の防除適期は8月3半旬頃と推定されます(表3)。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意してください。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が2℃高く推移した場合、ナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺盛期は、8月1半旬であると予測され、第4世代幼虫の防除適期は、8月2半旬頃と推定されます(表3)。

本種はモモ等の核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底するようにしましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、防除暦に従って適切に行ってください。

ウ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃です。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

エ ハダニ類

病害虫防除所による発生ほ場割合は、平年より高い状況です(7月30日付け令和7年度病害虫発生予察情報発生予報第6号より)。

高温期は増殖が速いのでハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行きましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定(令和7年7月31日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月7日	8月11日	8月5日	8月10日
平年並	8月8日	8月11日	8月6日	8月13日
2℃低い	8月8日	8月12日	8月6日	8月14日

起算日：モモハモグリガ第3世代誘殺盛期 7月16日(予測値)(演算方法は三角法)
ナシヒメシンクイ第2世代誘殺盛期 7月11日(予測値)(演算方法は三角法)

オ カメムシ類

病害虫防除所のフェロモントラップ調査におけるカメムシ類の誘殺数は、平年より多い傾向にあります。当管内におけるフェロモントラップ調査においては、一部を除き誘殺数は少なく推移しています。しかし、今後発生量が増加する可能性もあるため、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行きましょう。

表4 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

設置日	5月23日			5月22日			5月26日			6月3日		
調査日	須賀川市和田六軒			須賀川市越久			鏡石町高久田			石川町		
	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
7/14	5	0		1	0		21	0		1	0	
7/22	0	0		0	0		0	0		1	0	
7/28	0	0		1	0		0	0		1	0	
8/4	0	0		0	0		0	0		1	0	

作成者：県中農林事務所須賀川農業普及所
電話：0248-75-2181 FAX:0248-72-8331

ご不明の点は、最寄りのJAまたは須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、9月10日(水)です。